

第97回 二 科 展

NIKA

97TH NIKA ART EXHIBITION

被災地児童作品特別展示

—— 未来の夢のまち ——



南相馬市立石神第二小学校参加児童

会場：六本木・国立新美術館
会期：2012年9月5日～17日

南相馬市の復興に向けて ー南相馬市児童の作品展示に寄せてー

福島県南相馬市長 桜井 勝延

南相馬市では、昨年3月の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、未だ多くの市民が県内・県外各地で避難生活を送っております。

また、津波により家や家族を亡くしたり、家族と離れて暮らすことを余儀なくされたりしている市民もおります。

そのような状況ではありますが、全国の皆様からご支援を受け、本市も、市民一人一人が、互いに支え励まし合って、子どもたちのため、すばらしい未来を築くため、着実に復興に向けて歩みを進めております。

こうした折、「子どもたちに絵を描かせることをとおして元気にしたい」と、公益社団法人二科会の皆様より本市に児童作品展示のお話を頂きました。

子どもたちが描く「未来のまち」「未来の南相馬市」は、子どもたちの傷ついた心を癒すだけでなく、復興に向けての努力する我々市民の大きな心の支えになるものです。

二科展においでの皆様方には、未来の南相馬市を担う子どもたちの思いや夢をお酌み取りいただければ幸いです。

最後に、これまでいただきました全国の皆様方からのご支援に心より感謝申し上げますとともに、今後も、子どもたちの明るい未来のために進めていく本市の復興を温かくお見守りくださいますようお願い申し上げます、ごあいさついたします。

本市児童の「夢」・「希望」

福島県南相馬市教育委員会教育長 青木 紀男

公益社団法人二科会の皆様より、「被災地の子どもたちの力になりたい」とのお申し出を受け、昨年度に引き続き本市に児童作品展示のお話をいただきました。

今年度は、石神第二小学校の5、6年生が、二科会の先生方7名のご指導を直接いただきながら共同制作に取り組みました。

2日間の創作活動では、子どもたち一人一人が心に抱いている「未来のまち」を思う存分表現いたしました。震災や原子力発電所事故など、つらく悲しい出来事が重なっておりましたが、創作に一生懸命取り組む子どもたちの明るい笑顔は、将来への「夢」や「希望」にあふれており、これからの南相馬市の復興に向けて何物にもかえがたいものとなりました。

二科展においでの皆様には、この共同制作を通して、本市の子どもたちの抱いている思いを感じ取っていただければ幸甚です。

また、このような機会をくださいました二科会の皆様方に心より感謝申し上げます。

二科会の皆様へ

南相馬市立石神第二小学校 校長 金谷 哲

この度、本校の5・6年生75名の子ども達に大きな作品の制作に取り組む機会を与えていただきまして、ありがとうございます。

子ども達は、事前にそれぞれが絵を描いて準備していましたが、いよいよ制作に入ると、分担した部分の制作にどのように関わってよいのか戸惑いもあったようでした。

しかし、制作が進むにつれて、それぞれが自分の持ち場を決めて本気で取り組む姿が見られました。自分の分担を決めて、そこに集中して取り組んで、仕上がった作品を見た時、協力する意味を改めて自覚することができたように思います。

今回、作品制作に当たっては、材料、用具の準備から丁寧な指導までいただきました二科会の皆様方に心より感謝申し上げます。

南相馬市立石神第二小学校 教諭 伏見 真澄

先日は、お忙しい中子どもたちのために遠いところおいでいただきまして、ありがとうございます。今回の原発と震災のおかげで交通網が遮断され、東京への道のりが遠くなりました。まだ、心の傷を引きずっている子どもたちもいます。全国の皆様からの温かいご支援をたくさんいただき、感謝の日々を送っています。

今回の二科会の皆様の活動で、子どもたちが減多に体験することができない貴重な作品づくりができました。未来を夢見ながら協力することの大切さ・難しさ、そして楽しさ・完成の喜びと感動、を味わうことができました六年生にとっては、小学校時代の良い思い出となりました。この作品が、立派な美術館に飾られるのもすごいことだと話しています。これからの生きる力を養う一つになってくれると信じています。本当にありがとうございます。皆様のご健康とこれからのご活躍をお祈りいたします。



▲児童作品の解説に耳を傾ける来客者



▲オープニングセレモニー



▲児童作品の前で記念写真



▲二科ショップ(4部によるチャリティー作品の販売)

第97回二科展は9月5日のオープニングセレモニーで幕を開け、沢山の来場者を迎えました。

本年、二回目となりました被災地児童共同制作の大作は、多くの観覧者に深い感動を与え、多方面の報道等に取り上げられ大きな反響をよび、また二科ショップのコーナーでは、4部(絵画・彫刻・デザイン・写真)の会員によるチャリティー作品が並び、被災地を応援しようとする心で溢れていました。

会期後、引き続き現地に赴いて「絆通信」と称した絵葉書と記念切手をセットにして、仮設住宅で避難生活を送られている方々に差し上げる予定となっております。

二科展は、これからも被災地の支援活動が続けていきたいと考えております。

作品サイズ: 370cm×824cm / 作品制作期間: 2012年7月17日・18日



5 年 1 組

石坂龍太郎	武藤 空	相良 歩美
小元 勇介	佐久間駿人	古澤恵津子
飯田 那智	大妻 青空	白瀬 歩
菅原 健太	林 康太	江井 咲樹
青田 宗人	早坂 雄斗	鈴木 沙羅
酒井 千弥	庄司 七海	小林 未夢
林 佳太郎	鈴木 芽依	竹俣 優衣
赤石澤大貴	鈴木 優奈	阿部 祐希
木幡 大貴	齋藤 里歌	遠藤 尚太

6 年 1 組

佐藤 尋紀	児玉 綺粋	大塚 萌
松本 悠翔	前橋 宝果	岩城久瑠美
山田 耕大	志賀 遥	松本 真紀
岡田 龍斗	村上 侑霞	江井 美樹
都村 嘉伸	玉川 咲良	杉本 柚華
木幡 遥輝	菅野 夏実	
高橋 秀太	鈴木香央里	
大亀 颯斗	山崎 愛	
井上 匠海	星 葵	

6 年 2 組

山田飛憂芽	佐藤 航	高田 利佳
末永 敏己	樋口和佳子	佐藤 優花
高橋 佑太	宮本 真衣	齊藤かなえ
池田 初良	渡邊明香莉	鈴木 瑠捺
星 裕人	紺野 夏紀	角野 沙弥
小賀坂友哉	渡部 有南	竹俣 舞
多嶋 優斗	伏見 果保	泉 葵海
渡部 昇	小澤 栄里	
山田 航平	西村 美月	

南相馬市立石神第二小学校

学 校 長	金谷 哲
5 年 1 組	担任 佐藤 伸洋
6 年 1 組	担任 吉田 尚弘
6 年 2 組	担任 伏見 真澄

制作指導

川内 悟	山中 宣明
吉井 浩	塙 珠世
登坂 秀雄	須田美紀子
中島 敏明	

協力

大谷 和夫
志賀 吉延
南相馬市教育委員会
銘 醸 館



▲みぎまち、なかまち、ひだりまち、三つをつないで未来の夢のまちの完成



▲「未来の夢のまち」完成作品を前にして記念撮影



▲作品制作風景



▲ひだりまち制作風景(風をつくり、気球に乗って未来の夢のまちへ)



▲みぎまち制作風景(宇宙に浮かぶ未来の夢のまち)



▲なかまち制作風景(クリーンエネルギー、ソーラーピラミッドの未来の夢のまち)



▲作品制作風景



▲作品制作指導 二科会スタッフ

原発事故に直面する南相馬の児童への支援活動について

公益社団法人 二科会

「被災地の子供たちの思いを世界に伝える一方で、描くことが子供たちの癒しになれば」と今年も絵画教室による共同制作を指導し、第97回二科展に昨年同様、特別展示する運びとなった。

福島第一原子力発電所の事故の放射能汚染地域は除染作業もいまだ遅々として進まず、校庭に掘削後、入れ替えられた土砂は、まだ運動場の様相をなしていないように感じられた。現在の石神第二小学校の全校児童たちは、避難を余儀なくされ、まだ帰郷出来ない児童が多く震災前の半数にも満たない。

否応なしに放射能と向き合う日々を送らざるを得ない上に、放射能の健康被害への不安は、纏わり付いて離れない。

それでも、5・6年生合同の75名は元気に、大きさが縦3m横8mの『未来の夢のまち』に挑戦。共同制作の協力の仕方や超大作の完成の感動を得て貰えたようだ。

「私達が大きくなる迄には、皆で協力した絵みたいなお街になって欲しいと思いました。(5年生女子)」また最後のNHKテレビカメラに向かってのシュプレヒコール「未来の夢のまち、がんばろう福島!」の大歓声、など忘れられない。

作品をご覧いただき、子供たちの思いにあなたの心を重ねてみてください。我々は、いつか街が甦り静かな日々が戻るまで、支援の手を差し伸べ続けたい。

(文責 川内 悟)



第97回二科展 被災地児童作品特別展示

二科会 南相馬市立石神第二小学校制作指導(7/17~18)
川内 悟・吉井 浩・登坂秀雄・中島敏明
山中宣明・塙 珠世・須田美紀子

公益社団法人 **二科会**

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-3-15
レイフラット新宿 501号室
TEL.03-3354-6646 FAX.03-3354-4768
公式ホームページ <http://www.nika.or.jp>